

陣谷温泉 陣馬の湯

Jinya Onsen Jinmanoyu
(神奈川県相模原市)



外観

陣馬山（標高 857m）の名は、戦国時代に北条氏と武田氏が対陣したため「陣張山」と呼ばれ、後に「陣場山」あるいは「陣馬山」となったのが由来と言われている。今回紹介する「陣谷温泉 陣馬の湯」は、この山の麓にある。

今回、我々取材班は、JR 藤野駅から和田行きのバスに乗り、陣馬登山口から栃谷尾根経由で陣馬山山頂を目指し、その後奈良子尾根経由で陣谷温泉へやってきた。登山の行程は約4時間であり、手頃な日帰りハイキングコースである。

吉野沢沿いの陣馬の湯はこの陣谷温泉の他に「陣溪園」と「姫谷」があり、それぞれが温泉旅館となっている。奈良子尾根経由で下山した場合は、これらの3つのいずれかがチョイス可能だ。

登山が嫌な人は、藤野駅からタクシー利用をお勧めする。所要約10分で運賃は1,600円程度だ。もちろん、陣馬登山口バス停から歩いても良い。この場合は吉野沢沿いの緩やかな舗装道を歩いてバス停から所要約30分だ。自家用車でも行けるが、駐車場は5台分くらいしかなく、おそらく宿泊者が優先されるであろう。

建物の中に入ると受付は下の階にある。そこで入浴料を支払って、階段を登り返して玄関に戻り、玄関から見て右側の廊下を進み、突き当たりを外へ出て左の屋外階段を降りたところが風呂の入口である。手前が女風呂で、奥が男風呂だ。

脱衣室には籠が置いてあるが、ロッカーはない。貴重品は受付に預けるか持ちこまない方が得策だ。脱衣室はあまり広くない。キャパシティは5~6人くらいだろうか。

浴室もそれほど広くはない。真ん中に立派な檜風呂の浴槽が置かれ、その両側に洗い場

がそれぞれ 2 か所ずつ、合計 4 か所ある。浴槽は床の中には埋め込まれておらず、文字通り床の上に置かれている状況であり、水深が大きいので、足を高く振り上げて浴槽の縁をまたいで入る必要がある。湯加減はちょうどよい。洗い場にはシャンプーとボディソープが用意されている。

外を見やれば下方に吉野沢が見え、鯉が泳いでいる大きな池も見える。この池が露天風呂であったら良いのと思うが、そこまで歩くのは距離があるので結構面倒ではある。浴室の窓を開け放てば、川のせせらぎの音、鳥の鳴き声が聞こえる。都会のスーパー銭湯にはない自然がここにはあふれている。

この温泉にはオプションがあって、追加で 500 円を支払えば、入浴後の客室での休憩と、マイクロバスによる藤野駅までの送迎サービス（片道）が受けられる。時間と予算があれば食事をしていくのも良いであろう。山菜料理、猪鍋等が楽しめるようである。

ちなみに、我々取材班がこの地を訪れた 19 日と翌日の 20 日は、1 年に 1 回の「藤野ぐるっと陶器市」が開催されていた。藤野はアーティストが多く住んでおり、街のあちらこちらに地元アーティスト制作によるモニュメントが見られる。そして、陶芸家も多い。藤野へ来たら、登山、温泉、食事、陶器、芸術を全部欲張って楽しんでいくのが良いであろう。尚、温泉は前述の温泉の他に、東尾垂の湯、やまなみ温泉などがある。いずれ紹介したい。

久しぶりに登山をして、足に水ぶくれができ、おしりが少々筋肉痛となった。陣谷温泉は登山の疲れを癒してくれるには十分であった。

- **名称**：陣谷温泉 陣馬の湯
- **所在地**：神奈川県相模原市緑区吉野 1778
- **電話**：042-687-2363
- **営業時間**：要確認（宿泊者で混雑する時期は日帰り入浴不可）
- **定休日**：なし
- **入浴料**：1,000 円（宿泊者は無料）
- **サウナ**：なし
- **テレビ**：なし
- **取材日**：2012 年 5 月 19 日（土）
- **取材**：銭湯愛好会・東京支部